

(54)

氏名(生年月日)	カワ 川	モト 本	キヨシ 潔
本 籍			
学位の種類	博士(医学)		
学位授与の番号	乙第1400号		
学位授与の日付	平成5年10月15日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)		
学位論文題目	眼球メラノシスの臨床的, 病理組織学的検討		
論文審査委員	(主査) 教授 小暮美津子 (副査) 教授 野崎 幹弘, 宮崎 俊一		

## 論 文 内 容 の 要 旨

### 目的

太田母斑にともなう眼球メラノシスに対し臨床的, 病理組織学的検索を行い, 臨床病態, 組織形態, 発生病理について検討した。

### 対象および方法

臨床的検索の対象は眼球メラノシスを合併する太田母斑患者50例(男性12名, 女性38名, 年齢3~31歳)であった。病理組織学的検索の対象は, 強膜半層剝切術治療を行った31名(男性3名, 女性28名, 年齢11~31歳)であった。発症年齢, 自然経過, 遺伝形式, 眼科的検索(視力および屈折検査, 生体顕微鏡検査, 眼圧検査, 眼底検査), 強膜メラノシスの光学顕微鏡的, 電子顕微鏡的病理学検索を行い検討した。

### 結果

本邦においては, 眼球メラノシスは太田母斑に高率に合併し, 出生時より認められ, 臨床病型別には谷野のIII型に最も高頻度に認められた。また臨床病型が高度化するに従い合併頻度が高くなる傾向を認めた。家族内発生は濃厚ではなく, 眼球メラノシス遺伝関係は低かった。色素斑の部位別発生頻度は強膜, 虹彩, 脈絡膜, 視神経周囲, 結膜, 水晶体, 角膜の順で高率であった。強膜メラノシスにおける病理組織学的検索において, メラノサイトの組織学的分布パターンは浅在型および浅在優位型の2型で, その主体は強膜浅層であった。またメラノサイトの血管周囲性配列を認めた。その細胞形態は細胞突起の著明なものは少なく類円形~類楕円形を呈するものが代表的で, 細胞内に多数の成熟した第IV期メラニン顆粒を充満させ, 細胞

質は狭く, 細胞内小器官の発達は比較的乏しく, メラニン顆粒の産生, 崩壊, 排出像は認められず, pigment blockade melanocyte の形態を示した。

### 考察

強膜メラノサイトは胎生期のある時期にメラニン形成能が高まり, その後出生時にはすでにチロジナーゼ活性を失いメラニン顆粒の産生が抑制され, 既成の成熟メラニン顆粒を保持しているものであって, 細胞活性が消失しているか, きわめて低い状態にあり, メラニン顆粒はほとんど代謝されずにいると考えられた。これらの所見は太田母斑, 蒙古斑などが臨床症状を種々の要因で変化させるのに対し, 強膜メラノシスが生涯を通じて臨床症状がほとんど変化しないことに関係していると推測された。強膜メラノサイトは組織学的には脈絡膜メラノサイトにきわめて類似しており, 強膜メラノサイトは, 胎生期での脈絡膜へのメラノサイトの分化, 移動の途中で抑制が働き, 異所性に出現したものと推測された。またメラノサイトの血管周囲性配列が認められ, メラノシスの前毛様血管強膜穿通点の中心性出現, 血管腫との合併など, その発生に血管系の関与が推測された。

## 論文審査の要旨

太田母斑の皮膚病変に対しては多くの報告があるが、合併頻度の高い眼球メラノーシスに関する病理組織学的研究は極めて少なく、太田母斑と眼球メラノーシスとの関係についてもなお不明の点がある。

本論文は、太田母斑に伴う眼球メラノーシスを対象に臨床的検索を行い、併せて著者が考案した眼球メラノーシスに対する治療（強膜半層剝切術）で切除した強膜組織を用い、光学的・電子顕微鏡的観察を行ったものである。

臨床的には皮膚病変と眼病変の発症時期は必ずしも一致せず、皮膚病変が種々の要因で変化するのに対して、眼球メラノーシスは出生時から存在し、変化しないとの特徴を把握し、この相違を病理組織学的に強膜メラノサイトの分布パターンや配列、形態の面から明らかにし検討を加えたもので、学術的にも臨床的にも価値ある論文である。

### 主論文公表誌

眼球メラノーシスの臨床的、病理組織学的検討

日本形成外科学会会誌 第13巻 第4号  
198-214頁（平成5年4月30日発行）川本 潔

### 副論文公表誌

- 1) Ocular melanosis の治療. 形成外科 34 (8) : 813-818(1991)川本 潔, 宮永嘉隆, 鈴木 隆, 若松信吾, 野崎幹弘, 平山 峻
- 2) 眼輪筋附皮弁と硬口蓋粘膜を用いた眼瞼全層再建. 臨眼 45(13) : 1879-1882(1991)川本 潔, 宮永嘉隆, 永富絵美, 笹本良信, 野崎幹弘, 平山 峻
- 3) 脂肪吸引術による脂肪腫の治療経験. 形成外科 34(10) : 1091-1099(1991)笹本良信, 川本 潔, 戸佐真弓, 森岡康祐, 若松信吾, 野崎幹弘, 平山 峻
- 4) ポリLロイシン創傷被覆材の臨床効果. 日本熱傷学会会誌 16 (4) : 208-217 (1990) 宇井謙二, 宇津木龍一, 金 栄吉, 武田 啓, 影山廣美, 塩谷信幸, 黒柳能光, 安富義哲, 中村元信, 笹本良信, 川本 潔, 大竹尚之
- 5) 臍窩形成術. 手術 45 (6) : 857-865 (1991) 南雲吉和, 若松信吾, 南雲吉則, 川本 潔